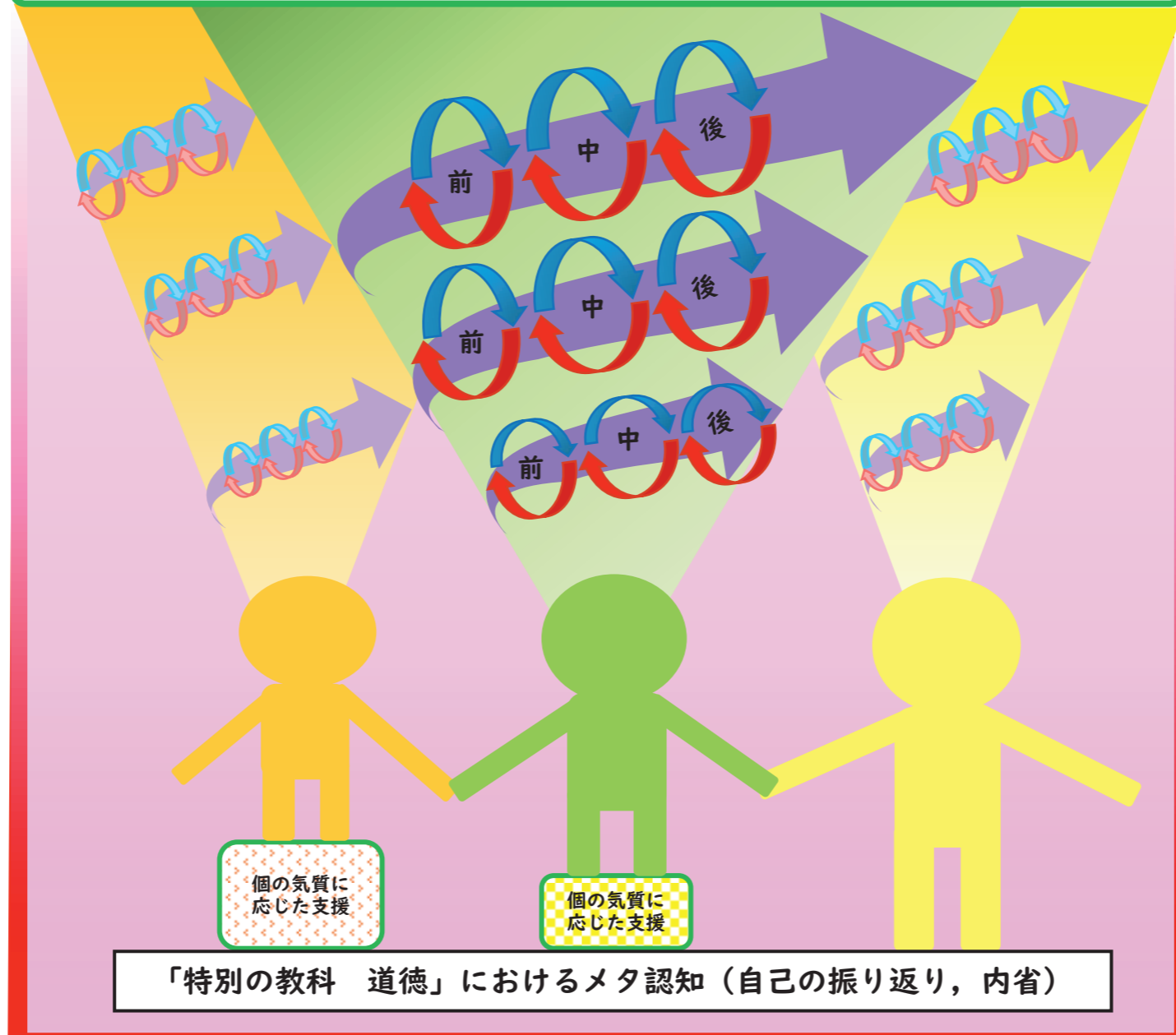


互いに磨き合い、学び続ける子供の姿

課題を解決するために、各教科の見方・考え方を働かせて、自ら考え、他者の考えに耳を傾けながら追究し、見いだした次の課題についても考え続ける子供



「特別の教科 道徳」におけるメタ認知（自己の振り返り，内省）

メタ認知に関わる実態把握（教師の見取り，質問紙調査）
メタ認知的活動に伴う子供の具体的な様相を共有

研究図書『授業を変える ～5つの視点～』を基に

【平成28・29年度研究主題】 学びに熱中する子どもの育成
— 学習意欲を育て、他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくり —

- 新たな問題を共有する場を位置付けた単元や題材の構成を工夫したり、関心や自信が高まるように働きかけたりすることで、子供が自ら問題を見だし、解決しようとする姿を数多く見ることができた。
- 解決に取り組むべき課題や学びの成果を適切に見つめ、学び続けようとする意欲を高めたり、主体的に次の問題を見いだしたりすることについては、まだ課題がある。

本校の研究

（平成30年度～令和2年度）

「特別の教科 道徳」におけるメタ認知を促す働きかけ

後	終末	要項 P.25
「道徳的価値の理解に至った理由」「これからの生き方」等の振り返りの観点を大切にするとともに、自分のよさを実感できる自己評価や相互評価を工夫する。		
中	展開	要項 P.24
二つの対話（自己との対話・他者との対話）を促すために、集団内の多様な立場の存在を明らかにし、自分の考えを選択・決定できるようにするとともに、自分の考えの理由を表出して、他の考えの理由と比較できるようにする。		
前	導入	要項 P.23
道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにするために、写真や図等の視覚的な支援により経験を想起させたり、教材を事前に読んで書いた疑問や感想を示したりし、その時に感じたことや考えたことを表出できるようにする。		

「特別の教科 道徳」でのメタ認知（自己の振り返り，内省）が他の教科のメタ認知に生かされていく。

対話

他者と協働しながら学び続けるために必要な「対話の促進」

UD

すべての子供の思考活動を保障する「学習環境のユニバーサルデザイン」

本校のメタ認知の捉え
自分の学習に関わる認知について、自分で監視し、制御すること

コントロール
メタ認知が働く場面
モニタリング

各教科におけるメタ認知を促す働きかけ

後	課題解決後	要項 P.16
教科の特質や学年の段階に応じて「学習内容」「学び方」「追究したいこと」に関わる、振り返りの観点を明示するとともに、子供の実態に応じた方法で振り返らせる。		
中	課題解決中	要項 P.14
自分の考えやその理由と、他の考えやその理由を比較し、共通点や相違点に気付くことができるような視覚的支援や場の設定等をする。		
前	課題設定以前	要項 P.12
単元及び題材の計画や既習事項を位置付けた掲示物を提示し、課題設定の理由を説明させる。		

単元構成

学習内容と子供の実態に応じた「単元や題材構成の工夫」

思考の手がかり

課題解決の視点や方法といった「思考の手がかりの共有化」

知識技能

思考に必要な要素としての「知識・技能の習得」

メタ認知ルーブリック（メタ認知的活動に伴う子供の様相一覧表）

	低	中	高
課題設定以前	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間は〇〇をしたな。 ・今日は〇〇するのだな。 ・〇〇したい。（しようかな） ・前の時間と何か違うな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間は〇〇したから、今日は前の時間とは別の（前の時間に付け加えて）□□をしたい。 ・前の時間にできるようになった〇〇を使って□□をしたい。 ・この勉強のゴールは〇〇だから、したい。 ・前の時間は〇〇だと分かったのに、これを見ると□□だから調べたい。 ・自分と友達は考えがちがうから、どうして友達はそう思ったのか考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（資料や補助黒板を指しながら）前の時間に〇〇ができるようになったから、今日は□□を試してみよう。 ・自分にはまだ〇〇が足りないから、□□をしたい。 ・前の時間の〇〇を使って、□□のために△△をしたい。 ・〇〇ができるようになると、□□（単元の目標）が解決しそうだからしたい。 ・友達の〇〇という考えについて話し合おうと□□（単元の目標）が解決しそうだから△△したい。
課題解決中	<ul style="list-style-type: none"> ・この課題は解決できそうだ。 ※振り返りの際に、学び方に関わるものを振り返ることにより、解決の方法の見通しがもてるようになってくる。 ・Aさんはそう思ったんだね。自分は〇〇と思うよ。 ・友達の考えも聞いてみようかな。 ・自分の考えはこれでいいのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この課題を解決するためには、どんな方法を使えばよいらう。 ・この課題を解決するためには、〇〇という方法を使ったらよかったな。 ・前の時間と同じ方法を使ってみよう。 ・〇〇の方法を使ったから、次は□□の方法も使ってみよう。 ・自分は、〇〇という理由で、□□だと思うよ。 ・自分と友達の考えは〇〇が同じ（違う）よ。他の子にも聞いてみよう。 ・自分（友達）の考えは〇〇しているところがいいね。 ・自分は〇〇だと思ったけれど、友達はどう思ったのか聞いてみたい。 ・友達は〇〇という方法を使っているから自分もしてみよう。 ・自分の考えについて友達はどう思っているのか聞いてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この課題を解決するためには〇〇が必要だから□□しよう。 ・〇〇の方法を使うと□□がよく分かるから、△△の方法を使おう。 ・自分の方法ではうまくいかないから、たくさんの人の方法を見て自分の方法を見直そう。 ・前に友達と話し合ったら自分の考えがよくなったから、今回も友達と話し合おう。 ・より正しくするためには〇〇よりも□□という方法を使ったらよさそうだ。その方法でしてみよう。 ・自分は、〇〇という理由で、自分の考えを変えて（変えないで）□□という考えになったよ。 ・友達は〇〇という理由で□□と言っているけれど、自分は△△という理由で◇◇だと思うから考えを変えないよ。 ・友達の方法は〇〇というところがよいから、自分も取り入れよう。 ・自分の考えについて友達は〇〇と思うだろうな。聞いてみたいな。
課題解決後	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題が解決できた。 ・次は〇〇したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇という方法を使ったから〇〇できた。 ・友達と一緒に考えてできたから、次も友達と考えたい。 ・授業の始めの自分の考えと比べて〇〇というところが変わった。 ・自分の考えがよくなったのは、〇〇したからだ。 ・〇〇ができたので次は□□したい。 ・今日の〇〇という方法を使って、次も解決していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は〇〇という方法を使って考えたから、始めの自分の考えと変わって、□□ということが分かった。 ・友達の意見を聞くことで、〇〇ということが分かったよ。次の時間もいろいろな人と話し合ってみよう。 ・〇〇の方法を使うと、きっと□□になると思うから、次は△△という課題にも挑戦してみたい。